

## 知的好奇心～メビウスの輪、その先～

校長 飯塚 進

2学期が始まりました。保護者、地域の皆様のおかげで、子どもたちは充実した夏休みを過ごし、また元気に学校で過ごしています。「実りの秋」です。学習面も生活面も実り多い2学期になるよう職員一同精一杯頑張ります。御支援御協力をよろしくお願いいたします。

さて、「授業」で大切なことはたくさんあります。その中の1つに、「課題の工夫」があります。子どもたちが、その課題と出会った時に、「え？どういうこと？」という問いをもったとしたら、授業のスタートとしては成功したと言っていいと思います。しかし、これがなかなか難しいのです。このような良い課題を子どもたちに提示することは、私たち教員の大事な仕事の1つと言えます。一方で、子どもたちには、知的好奇心をもってほしいと思っています。知的好奇心が高ければ、抜群な課題でなかったとしても、能動的に調べ、考え始めることが増えると思われるからです。多くのノーベル賞受賞者の方々も「知的好奇心」の重要性を話されています。

知的好奇心と言えば、心に残っていることがあります。それは「メビウスの輪」に関わることです。紙テープで輪を作り(写真1)、真ん中で切っていく(写真2)と、当然、輪は2つ(写真3)できます。ところが、紙テープを一ひねり(180度回転)させて輪を作り(写真4)、同様に真ん中から切っていくと、不思議なことに、輪は2つにはならず、1つの大きな輪(写真5)が完成します。メビウスの輪です。御存知の方も多いのではないかと思います。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5

私は、この話を聞いて、「なるほど。」ぐらいにしか思っていませんでした。ところが、ある人から、「では、2回ひねって(360度回転)輪を作り、真ん中を切っていくと、どうなるか知ってる？」と聞かれました。実際やってみると驚きました。(※1) 続いてある人が、「2つの輪を直角を作るようにしてくっつけて(写真6)、真ん中を切っていくとどうなると思う？」と言いました。実際やってみて、さらに驚きました。(※2)



写真6

その人のように知的好奇心が高いということは、能動的に調べ、考えて、楽しいことがたくさん経験できるのだと思いました。子どもたちにも、普段から素朴な疑問を大切に生活してほしいと思います。

※1 2つの輪がくさりのようにつながります。

※2 正方形(=同じ大きさの2つの輪)や長方形(=大きさが違う2つの輪)ができます。